やまぼうし

第３号
2020 年 4 月

陶磁研究やまぼうし会
YAMABOUSHI CERAMICS RESEARCH SOCIETY

ともに陶芸を楽しみませんか

人生１００年時代に入り、老若男女を問わず、人生において自分らしい時間を持つことが欠かせないものとなっています。それには、陶芸は落ち着いて創る喜び、分かち合う喜びを実感できる格好の活動と言えます。当会は「社会貢献を目指しながらコミュニティー・ライフを楽しむ」ことを目的としています。約 20 年前に、東京芸大公開講座（陶芸）の受講生が中心となって発足しました。２年前に組織改組の上､陶磁研究「やまぼうし会」と改名してからも､公開講座の受講経験者が中核となって活動を支えています。つまり、陶芸の楽しさに目覚めた人々が、ともに高め合い支え合い、あるいは陶芸の楽しさの輪を広げていくことが活動の基本です。生きがいに満ちた自己実現の場となることでしょう。現在８９名の会員を擁し、文京区社会関係団体の指定を受けて、湯島天満宮そばにある文京区の公共施設アカデミー湯島を活動拠点にしています。

2019 年度は、恒例の会員による作品展をはじめ、技法講習会では芸大陶芸研究室関係者を講師に迎えて多様な絵付けを含む作陶等を楽しみました。秋には、丹波立杭焼の郷と、神戸市にある竹中大工道具館を１泊２日で訪問しました。文京区立湯島小学校での図工授業および特別支援学級のお手伝いをしました。毎週金曜日の１０：００～１６：００には、会員が活動拠点の作業室で、絵付け・焼成を含む作陶等を自由に、自主的に楽しんでいただいています。この冊子をご覧いただければ、会員の生き生きとした活動の様子が伝わってくるはずです。

2020 年度もさらに充実した企画を実施して参りますので、どうかご期待ください。そして、本誌により当会に興味を持っていただき、新たなお仲間と土に親しむ時間をともに過ごすことができましたら、このうえない喜びです。　　やまぼうし会　会長　落合卓四郎

前田正博 先生 作品

佐伯守美　先生作品

豊福　誠　先生作品

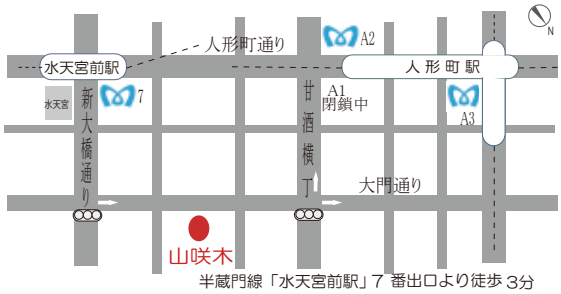
三上　亮　先生作品

日本の工芸作家を中心に若手俊英作家からベテラン人気作家まで、工芸の世界の第一線で活躍する作家の個展、グループ展を中心に展開しております。また催事期間以外の常設展示では、東京藝術大学を卒業された旬な作家を中心に揃え展示をしております。作家物の作品を観て触れて「たなごころ」を存分にお楽しみ下さい。

ギャラリー山咲木・山﨑哲也

ギャラリー山咲木

〒 103-0013 東京都中央区
日本橋人形町 2-16-2 ユウビル１階
TEL 03-6661-6865　http://www.g-yamasaki.jp
FAX 03-6661-6896
< 展示会会期中の営業時間 >11:00 ～ 19:00
* 会期中は無休　会期前後日休み
< 展示会以外の営業時間 >11:00 ～ 18:00
* 展示会以外は、日・月曜日休み (臨時休業あり)



半蔵門線「水天宮前駅」7 番出口より徒歩 3分
都営浅草線「人形町駅」A3 出口より徒歩 5 分
日比谷線「人形町駅」A2 出口より徒歩 3分

第１回技法講習会　「景徳鎮呉須による染付と釉下彩」

2019 年 4 月 20 日
於　アカデミー湯島

講師　島田文雄　東京藝大名誉教授

本格的に陶芸を始めて日が浅く、手探りの勉強中です。そんな訳で私には、陶芸の用語が独特の響きに聞こえます。「呉須」も、その一つです。なぜ呉須？　呉須とは？　そこで、「呉須」をインターネットで調べてみました。すると　こうありました、・・・瀬戸周辺に産出する染付の原料で、呉須（呉須土）と呼ばれるコバルトを含んだ真っ黒のマンガン土がある。呉須は正確には鉱物ではなく　成分は、かなりの部分非晶質の酸化マンガンで、結晶質の部分にはリチオフォル石（Al,Li）$MnO_2(OH)_2$ と呼ばれる　リチウムとアルミを含む酸化マンガンの鉱物が多くこれに少量のコバルトが吸着されている。コバルト含有量は１ - 20%（母岩のケイ酸塩砂を引いて）である。　江戸時代には　黒い呉須の部分を粉砕・水簸・脱 Fe・摩砕して絵付け用「いろぐすり」として用いた。・・・とあります。出典：「呉須土、結晶美術館」で検索　sites.google.com/fluordoublet/home/

話は、飛びますが、先日のニュースで、「リチウムイオン電池がノーベル賞を受賞」、この電池のプラス極 (正極) に使用されている化合物の一つが $LiNiCoMnO_2$　です (呉須土の組成とよく似ています)。(但しノーベル賞を受賞した Goodenough 教授は $LiCoO_2$ を用いたが、この報告を切掛けとして $LiNiCoMnO_2$、$LiNiCoAlO_2$　$LiMn_2O_4$ などの材料が開発されることになります。) この $LiNiCoMnO_2$ 化合物は Ni/Co/$Mn(OH)_2$ と Li_2CO_3 を混合して約 900℃で焼成し合成します。この化合物の実験・生産に関わっていた筆者にとっては、偶然とは言え「ノーベル賞、リチウムイオン電池正極材、呉須」を身近に感じる昨今です。話を基に戻しますと、島田先生の講習会の折、先生が中国から持ち帰った呉須のうちで、　新康乾 1 号、明清 26 号という 2 種類の中国景徳鎮の呉須を選んで染付を行いました。稚拙な絵の染付の結果となりましたが、還元雰囲気での焼成で鮮やかなで趣きのある藍、コバルトブルーが発色していて、お皿を見て、嬉しくなりました。

今年２月の島田先生の展示会で、呉須による見事な絵付け作品を拝見する機会に恵まれました。又　講習会では、製作の実際を拝見する事が出来、貴重な体験をすることができました。講習会以後、中国景徳鎮の呉須による絵付けを自分の作品に応用する事が出来ました。今後、益々色々な技法を学び、作品に応用して行きたいと思っていますので、やまぼうし会の皆さんのご支援には感謝致しております。　　荻須　謙二　記

島田文雄先生によるデモ

景徳鎮呉須のテストピース

焼成前の呉須発色状態

第２・３回技法講習会

2019 年 7 月 14,15 日・10 月 14 日
於　アカデミー湯島

西村　圭生　先生

第２回　「土からスピーカーを作ろう」
第３回　「タイル風釉彩を楽しもう！」

講師　西村 圭生 先生

この技法講習会では、スマートフォンスピーカーの作成と、タイル風釉彩技法を学びました。

１つの講習会でスピーカーとタイル風釉彩の２つの技法を教えてくださった西村先生に感謝！の２日間。１日目は、西村先生からこれから作成するスマートフォンスピーカーについて、基本はメガホンの構造というご説明と、通常底部から作るタンブラー型を、逆に口の部分から積んでいく方法をデモンストレーションいただきました。

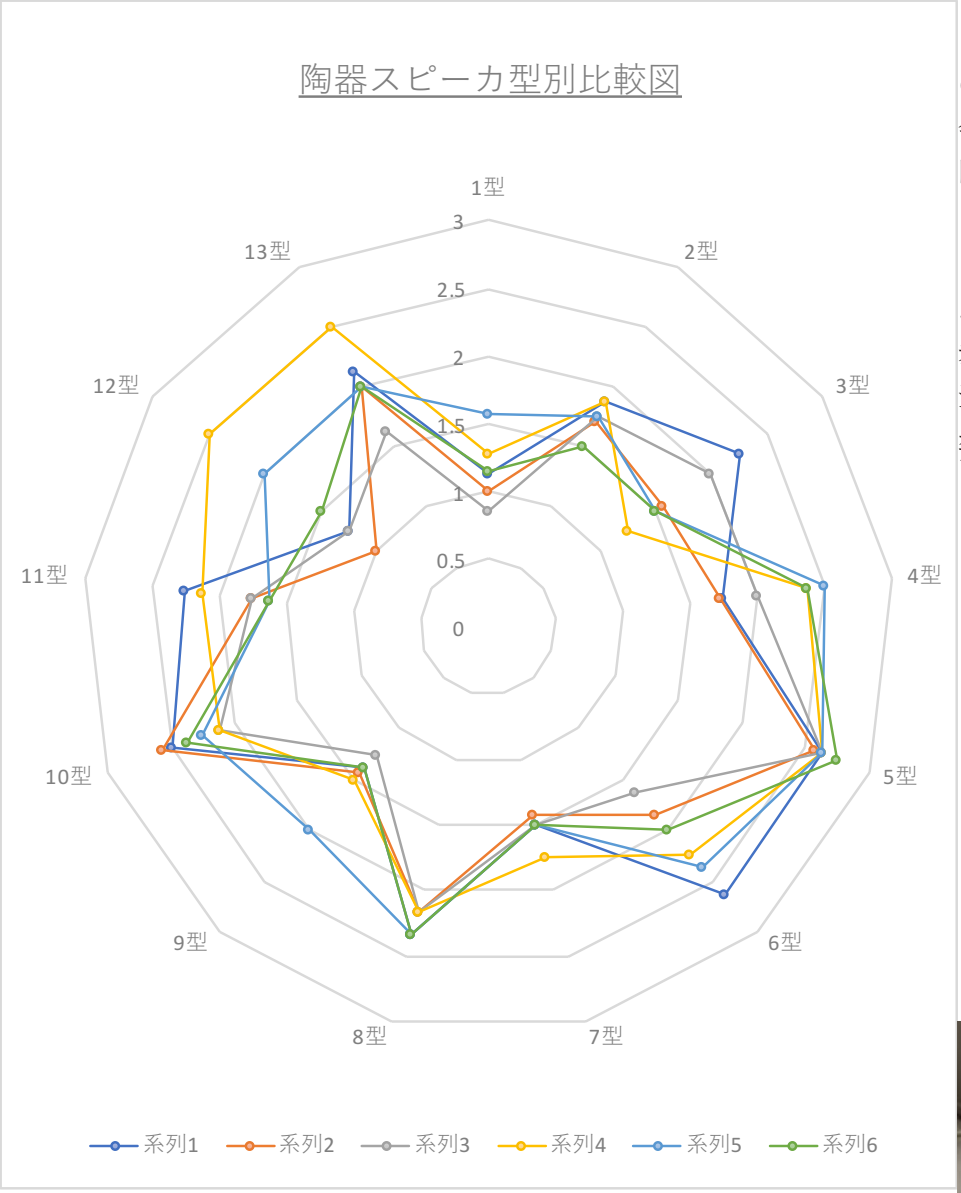
各自の制作は、先生の見本のスピーカーで音の違いを感じながら、スマホの音が、スピーカーの内部でどのように反響をするかなどを考えながら作業しました。（次ページ　比較図参照）

２日目の午前中はタイル風釉彩技法を学びました。合田さまがご厚意で焼いてくださった素焼きのプレートに、養生テープなどで釉彩する部分と裏面をマスキングして、外枠部分に釉薬をかけてからテープを外して作業しました。濃い鉛筆で輪郭を描き、中にスポイトで釉薬を入れていきます。たくさんの色をどのように配置しようかと夢中になりました。盛りだくさんで楽しい２日間の講習会でした。ありがとうございました。　　石井　友紀子　記

タイル風釉彩講習会は好評で時間が足りなかったため第３回講習会を続けて開催した。

第３回講習会タイル風彩釉皿

第３回講習会タイル風彩釉



スピーカの形状による音の響き、音質を比較視聴会を８月６日にカラオケ喫茶店で行った。
参加者８名がクラシック、ポピュラー、演歌、ムード音楽を聞き比べた 。参加者は各自１点～５点満点で各曲、各形状に点数をつけて比較した。
その結果多くの参加者が５型を選出した。
（平均点 2.6 最高４点）
次点に 10 型、８型
（平均点 2.3 最高３点）
６型は評価が分かれた
（平均点 2.1 最高４点）
12 型も評価が分かれた
（平均点 1.6 最高３点）

音質１ ―― クラリネット協奏曲　クラシック
音質２ ―― 恋は水色　ポピュラー
音質３ ―― ホワイトクリスマス　ムード音楽
音質４ ―― 時の流れに身を任せ　演　歌
音質５ ―― 津軽海峡冬景色　演　歌
音質６ ―― 新世界より　クラシック

１　型

11　型

２　型

３　型

４　型

５　型

６　型

７　型

８　型

９　型

10　型

12　型

13　型

第４回技法講習会　「三上先生流 手轆轤体験」

2019 年 11 月 9 日
於　アカデミー湯島

講師　三上　亮　東京藝大准教授

アシスタント：清水雄稀　　元場　葵

2017 年に六古窯が日本遺産に登録されて以降、陶磁器産地としては知名度の低かった丹波に光が当てられるようになりました。今西さんをはじめとする立杭の作家の積極的な活動もありその存在感は年々大きくなってきています。2019 年は美術館でもギャラリーでも、丹波の焼き物を目にすることが多い年でした。この機運の中で実際に丹波に行き、現地の土でもって蹴轆轤で作陶し、栗の釉をかけて焼成する。今回の講習会はとても鮮度のあるものであったと思います。

丹波焼は荒い山土と、きめの細かい田土をブレンドして作られています。
山土は轆轤でひくことが困難なので、板の上で紐づくりし、最後に蹴轆轤で少し整えるというやり方で成形されてきました。今回用いたのは田土の方でしたから、とても滑らかで、手轆轤で引き上げるには作りよい土であったと思います。

人力の轆轤で一つ一つ成形していく良さは、感度の高い作品ができるところです。作品に作り手のリズム、瞬間性と柔らかさが現れます。
電動轆轤では土ごろしの工程と、一定速度の回転によって均質な作品が作られます。粘土の塊から動力でいくつもひいていくので固めの粘土をつかうことも間間あります。手轆轤や蹴轆轤では固い粘土はひくことができないので、柔らかな土を必要な分だけおき、さっとひきあげます。その人の轆轤の調子・指の動きに柔軟に土の粒子が反応するので、非常に感度の高い造形になります。

三上亮先生のデモンストレーションではそれが非常によく現れていました。
土の性質と自身の体の使い方が作品に与える効果について、示唆に富んだ試みであったと思います。今後の作陶ではこれまで以上に求める技法・形に適した粘土の状態に注意を向け、体の使い方も意識していくと一段と良いものができてくると思います。
私自身も大変勉強させていただきました。丹波の土で皆さんと作陶することができて楽しかったです。

５月に丹波で行われる最古の登り窯焼成プロジェクトにも参加する予定ですので、参加される方、現地でお会いした際は楽しく頑張りましょう。
ありがとうございました。　　東京芸術大学 陶芸専攻 学部４年　　元場 葵　記

三上先生による指導

合田会員　作成の蹴轆轤

朴　会員所有　手回し轆轤

第５回技法講習会　「陶器で動物を作ろう」

2020年１月 18日
於　アカデミー湯島

講師　北郷　江先生
アシスタント：中嶌雄里　先生

私たちの「いきもの狂想曲」

二十四節気「大寒」目前の日曜は、案の定の雪。センター入試の受験生たちには少し悪い気もしましたが、それは楽しい一日となりました。茨城県陶芸美術館「いきもの狂想曲」展では、多彩な表現に魅了され、ぜひ鑑賞したいと願いつつも、機を逃し残念に思っていましたが、今回、出品作家のおひとりである北郷先生に教えをこうことができ、年始早々の幸運に喜びもひとしおです。はじめてのフィギュア造形は、まさに想像以上の難しさ。「これはいったい何の生き物？」から、「うんうん、それに見えるようになってきたかな？」という状態を経て、やがてなんとか私のテーマであるフクロウが立ち現れると、なんと嬉しいことよ！生き物のゆえに「気持ちが入る」とでもいうのか、どなたの作品も、可愛く見えてきます。ちょっと「へんてこりん」かもしれないけれど、どの子も愛おしく、これはこれで、私たちなりの「いきもの狂想曲」。最後の仕上げは炎にゆだね、どんな風に生まれてくることやら？北郷先生、中嶌先生、スタッフの皆さん、素敵な機会を本当にありがとうございました。　畑　耕志　記

北郷先生のデモ

うちのハナちゃん

北郷先生　中嶌先生

ナマケモノ

サカナ

ことら

アルパカ

馬の花器

ブタの植木鉢

カメレオン

アヒル

くまもん

うし

アライグマ

花　兎

ゴリラ

黒　猫

跳びウサギ

チャッピー

猫　又！

ブーブー

丑

フクロウ

イヌ

バク

第 66 回　日本伝統工芸展

日本橋三越本店　2019.9.18 ～ 9.30

日本工芸会総裁賞　花文大鉢　「椿」

望月　集　先生から説明

第 66 回日本伝統工芸展で最高賞の日本工芸会総裁賞を受賞された花文大鉢「椿」についてお話を伺うため中野区方南台にある先生の陶芸工房「一閑」をお訪ねしました。駅から 1 分とは思えない閑静な住宅の中に純和風の佇まいのエントランスが見えてきました。

工房に入ると金曜、土曜日陶芸教室として開放されている広い部屋で皆様が作陶なさっているところでした。その奥に窯場があり酸化と還元の焼成ができる窯が置かれていました。教室の隣は先生のアトリエ兼事務所で今回はそこでお話を伺いました。

芸大時代恩師の浅野先生のお供で富士の裾野に行かれた時、広大な原野一面に生える尾花が逆光を受け光り輝く光景に大自然の織り成す美しさに都会生まれの先生は感動で息を呑まれたそうです。浅野先生の用の器の絵付けに出会いご自身も植物で加飾することを始められた。尾花、秋草、牡丹、梅、桜、椿など自然界から受けた感動を鉄絵、赤絵等の技法で描いて来られたのは皆様もご存じの通りです。

受賞作「椿」の大鉢は陽を浴びた葉を白くやがて陽が翳り陰に入った葉を黒く描くことで時の移ろいの中で咲く椿を表現されたそうです。

ご多忙の中貴重なお時間を頂き有難うございました。

下　絵

下絵展開

大鉢への展開

技法講習会展示会

島田文雄　顧問より

第８回　上絵による絵付け作品

「第１回 陶磁研究やまぼうし会 技法講習会 展示会」

８月３日より７日迄　文京シビックセンター アートサロンにて当会の活動内容を広く伝える為 展示会を行いました。内容は 2018 年度に行った８回の技法講習について各講師の紹介と参加者の成果を展示するものです。また継続している社会貢献活動 (湯島小学校の授業支援) についても概要をパネルで展示致しました。初めての会場での新しい試みではありましたが、場所柄も良く 酷暑の中 想定以上の来場があり、有意義な催しとすることが出来ました。関係各位のご努力ご協力に深く感謝申し上げます。

吉 村　計　記

事務局より

期間中は５日間で延べ 434 人、１日あたり平均 87 人の来場者がありました。2020 年９月 23 日から同場所に於いて、第４回 作品展を開催いたします。

第３回　洋絵具による絵付け作品

第４回　練り込み技法による作品

第７回　鋳込み技法作品

第 5/6 回　呉須だみ技法作品

穴窯焼成による作品

第１回　漆による加飾

陶磁研究やまぼうし会　第３回 作品展

2019 年 11 月 14 日～ 17 日　於：スペースゼロ

豊福　教授

三上　准教授

刈込　華香　先生

西村　圭生　先生

茂田　真史　先生

前沢　幸恵　先生

橋詰　正英　先生

湯島小学校　作品

三上先生　講評

１朴　貞姫

２ 川村　健司

３ 小松　幹夫

4 鳴島　淳子

5 廣田　弘子

6 多比羅　春代

7 茂貫　浩子

8 落合　博子

9 坂口　明美

10 長濱　善子

11 戸松　令子

12 根本　雅子

13 宮沢　恵美子

14 大出　ヒロ子

15 江原　英子

16　海老名　志文

17　末田　寛治

18　近藤　　健

19　鳥海　久江

20　竹村　光子

21　石川　久夫

22　河西　寿子

23　大熊　敏幸

24　平井　久和

25　赤坂　延子

26　落合　卓四郎

27　佐藤　恵子

28　石崎グロリエッタ

29　大森　　一

30　工藤　久仁子

31　荻須　謙二

32　吉村　　計

33　坂永　卓宏

34　北村　廣明

35　ワテレット幸恵

36　前田　法子

37　福島　龍彦

講評後　高岡・茂田　先生を囲んで

立杭方面研修旅行

2019.9.18 ～ 19

透明感あふれるロビー

今　西　公　彦　氏

雨　滴　聲

美術館中庭の陶灯群

1. 竹中大工道具館　　新神戸駅近くに建つ道具館では、ロビーで概要説明をうけました。のち、7つのコーナー、歴史の旅へ・棟梁に学ぶ・道具と手仕事・世界を巡る・和の伝統美・名工の輝き・木を生かす、を見学。なかでも唐招提寺の巨大な木組みの模型、宮大工の卓越した仕事は圧巻で、木を十分に生かす知恵の数々に驚きました。大工道具が美しく愛おしくみえました。

2.　大雅工房　市野雅彦氏の工房。　隣接するAbf　とよばれるギャラリーは雅彦氏が設計され、和紙を多用し外に連なる静寂な空間で、そこに置かれた代表作である貝を思わせる「開」はひと際異彩を放って見えました。800年以上続く歴史ある丹波に生まれ育って、それを継続しながら自分なりの独自性を探っていく、工芸的な美しさと現代的な造形力を持つ作品を創作。出されたお茶、湯呑み椀は、赤土部の際立つ素朴で美しい雅彦氏の作でした。

3.　宮ノ北窯　　今西公彦氏の工房。　まず通されたのは、左官職人久住章氏との共同作業で丹波焼の陶土を使って出来た土壁の小屋「雨滴聲」と呼ばれる空間。そこに置かれた作品は建物と一体となって見えた。壺は雑木による灰が降りかかり、美しい景色となっている。地元の山から様々なタイプの原土を採取し、足で練り適度な粘りをつくりだす。工房で床に広げた原土を拝見し話を伺い、味わい深い焼き上がりが生まれる礎を見た思いです。

4. 兵庫陶芸美術館　　虚空蔵山の麓にある美術館。当日は、テーマ展「丹波焼の世界」で、世界遺産にも認定された日本六古窯の一つに数えられる丹波焼の世界を紹介していました。鎌倉・室町時代の壺、江戸時代の大平鉢、等展示され、赤土部灰釉甕に目を見張りました。特別展では「恋する古伊万里かたちとデザインの魅力」・イギリス陶芸コレクションを鑑賞しました。

5.　登り窯　　蛇窯　明治28年に築窯され現在も使われている丹波焼最古の登り窯。全長47メートル、9部屋の焼成室を備え、共同窯として現在も使用されています。

6. 丹波伝統工芸公園 立杭陶の郷　　見る・体験する・楽しむ ための総合施設。52軒の窯元が作品を展示･販売する「窯元横丁」を巡る。充実していて、楽しめました。

二日間の研修旅行は、内容の濃い素晴らしい旅でした。計画・立案・推進してくださった、山下さんはじめ幹事の皆様に感謝いたします。

市野氏作品「開」を囲んで

登　り　窯

神戸夜景スーパームーン？

薪　穴　窯　体　験

2019.4.27 ～ 5.6

2019 年度も昨年度と同じプログラム（尾崎窯体験）で「薪穴窯体験」のやまぼうし会にとって第２回目を実施しました。当会から１１名の参加がありました。

中野区の施設「中野ゼロ」を活動拠点にしている「陶芸日曜会」が、埼玉県の「丸沼芸術の森」構内にある丸沼陶芸倶楽部「薪穴窯」を使って、例年５月上旬頃に会員たちの作品を焼成しています。

火入れから５日間昼夜を問わず連続焼成しますので、それに要する薪の量は半端ではなく、叺（かます）を１６個位ぐらい消費するとのことです。

当会の焼成は基本的にアカデミー湯島の小ぶりな電気釜での酸化焼成のみです。扱いはいたって簡単で、丁寧に窯詰めしてから５個の焼成プログラムの一つを選び、通電すれば後は一定期間何人も窯部屋に入室は許されずに、３～４日後に窯出しをすれば終わりになります。大体想定内の出来上がりが期待できるのもメリットの一つとのことです。一方で、有史以来の長い伝統を有する薪窯では、薪の天然灰をかぶり、多くの人手で操った本物の炎で長時間しっかりと焼成された作品には、偶然が支配する自然だけがもたらす揺らぎの味わい（景色）があり、見る人の心に様々な問いかけをします。

当会の会員は、少なくとも一度は薪窯で作品を制作したいと希望していらっしゃると思います。実際すくなからぬ会員からそのような希望があると仄聞していました。当会が新たに発足した翌年 2018 年早々に、「陶芸日曜会」の幹事の一人である、当会会員でもある根本雅子さんから、５月の上記薪穴窯のプログラムに当会からの参加へのお誘いをいただきました。早速理事会に諮り賛同を得て、会員に呼び掛けて参加者を募ることにしました。１０名の参加者がありました。今後毎年参加して焼成技術を学び、将来的には「薪穴窯焼成」が当会の活動の一つの柱になればと思い会員に提案いたしました。

２回の経験を通して、薪窯焼成技術の深さ・広がりを未経験者なりに体感しました。今回懇切丁寧にご教示いただいた尾崎さんから「今後、この窯の使用頻度が下がっているので､やまぼうし会単独で企画してくれないか」とご提案をいただいたところですが、当会としては直ちにとはいかないと実感しております。しばらく「陶芸日曜会」のプログラムに協賛させていただき、経験を積んでから可能になる中長期の計画とできればと思いました。　大変多くのことを学び経験が積めますので、今後一人でも多くの会員の参加をお勧めします。　落合卓四郎　記

膨大な薪の量

薪をくべる

焼成した作品群

ISCAEE 2019-KOREA

（やまぼうし会から 12 名参加）

ISCAEE 2019 (International Society of Ceramic Art Education & Exchange) was held in June 24 to July 5 at DKU, Dankook University, the leading Innovative University of Korea.

The grandeur of the hilly campus of the University showing beautiful humongous ceramic art and awesome landscapes was ideal for the meeting of international members from different countries: United Kingdom, USA, South Africa, Australia, Belgium, Turkey, Japan, China and Korea.

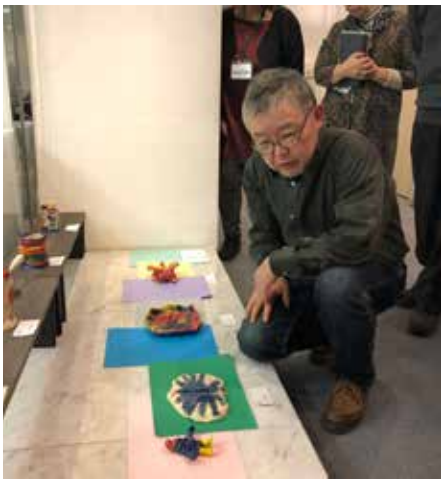
This 9th convention of ISCAEE in DKU was characterized with various workshops and conferences by about 180 students and professors from 8 different countries. We all learned from each other's skills and knowledge while we shared friendship as well. Noteworthy are the groupings created randomly composing of members coming from different countries, different languages, different customs and different training.

The 'rule' was to stay together as a team creating together different projects – Korean fan, ceramic bowls and an animal sculpture. The animal sculpture was the peak project, since it was at a competition level. Many spent hours at night to finished their sculpture. There was tension, excitement and lots of bonding. It was surprising and amazing to see and feel good communication through art. The world seemed to be one as we all blended together with respect and acceptance of different cultures and personalities. Thank you Dankook University!　石崎グロリエッタ　記

ISCAEE 2019（国際陶芸教育交流学会）は、6 月 24 日から 7 月 5 日まで、韓国の革新で指導的な大学である Dankook 大学の DKU で開催されました。美しくとてつもなく巨大な陶芸と素晴らしい風景を見せている大学の丘陵キャンパスの壮大さは、英国、米国、南アフリカ、オーストラリア、ベルギー、トルコ、日本、中国、韓国など、さまざまな国からの国際メンバーの会議に理想的でした。DKU での ISCAEE のこの第 9 回大会は、8 か国からの約 180 人の学生達と教授達によるさまざまなワークショップと会議で特徴付けられました。私たちは皆、お互いのスキルと知識から学び、友情も共有しました。注目に値するのは、さまざまな国、さまざまな言語、さまざまな習慣、さまざまなトレーニングを持った参加者でランダムにグループが構成されたことです。「ルール」は、韓国の扇、陶器のボウル、動物の彫刻など、さまざまなプロジェクトを一緒に作成するチームとして一緒にいることでした。動物の彫刻は、競争レベルにあるため、最高のプロジェクトでした。多くの人が夜に何時間もかけて彫刻を完成させました。緊張、興奮、たくさんの絆がありました。アートを通して良いコミュニケーションを見たり感じたりするのは驚くべきことでした。さまざまな文化や人格を尊重し、受け入れることで私たち全員が混ざり合ったため、世界は一つのように見えました。ダンコック大学、ありがとうございます！

社会貢献　湯島小学校

湯島小学校すずかけ教室児童作品


すずかけ教室児童作品の講評

湯島小学校４年生作成した菊鉢

菊鉢の焼成　アカデミー湯島電気窯

本会の規約第２条「目的」に述べる「活動の成果を地域に還元することで、地域文化の活性化に寄与するなどの社会貢献を目指しながらコミュニティー・ライフを楽しむ」ことを具現化すものとして、文京区立湯島小学校の図工（陶芸）授業のお手伝いを開始してから早くも３年目を迎えました。２年目の 2018 年度は特別支援学級のすずかけ学級と、２年生から５年生までの授業のお手伝いをしましたが、2019 年度は校舎の改築工事があって、すずかけ学級と４年生の授業のお手伝いのみになりました。

すずかけ学級での課題は、昨年度のそれを踏襲するものと自由に任せるもので､作陶（6 月 7 日）と絵付け（6 月 28 日）の授業でした。

関係者のご了解を得て、全作品を当会の新宿スペースゼロでの作品展会場に展示しました。(左　写真)

湯島天満宮は 11 月に開催される菊祭りで有名です。湯島小では、以前からベテラン菊作りのボランティアたちの指導を受けて、４年生は４月から２鉢を種植えから初めて 11 月の菊祭りにそのうちの一鉢を展示するプログラムを励行してきました。４年生の授業の過去２年間の課題は、その鉢を収める菊鉢を作陶・絵付けするものでした。今年度は、単に菊鉢のみでなく、菊祭りが終了後は、それ自身で使い道のある器を目指して高張先生は指導され、当会がそれをお手伝いしました。

今後も菊祭りの菊つくりと菊鉢用器つくりのコラボレーションを４年生の今後の恒常的な課題にすることを高張先生とご相談しています。

小学校が常備する電気焼成窯が耐用年数をとっくに超えて、動作が安定しません。３系統ある配線の下段一系統が断線していることが分かりました。校舎の上部階にある、当会の活動拠点でもあるアカデミー湯島の窯と併用して、何とか無事にお手伝いを貫徹できました。それには 22 名の会員のボランティア参加をいただいたことを申し添えます。　　落合卓四郎　記

自主企画について

橋詰先生による轆轤

再挑戦　鋳込み

自主復習鋳込み

孫先生による陶器の歴史講義

焼成後の講評会

自主企画は技法講習で学んだことをその時だけのことにしないで再挑戦して初めてよりはよりよい作品？が出来ればと設けられたように思います。

毎週金曜日に（予約状況をご確認してください）希望者が自主的に作陶できる日としております。絵付け、作陶、削り、素焼き、窯出し、本焼き、窯出し、参加者が当番制で実行できたらと思います。作陶でも電動轆轤は菊練り、土ころし、引上げが基本で毎回繰り返し練習することが重要なようです。毎年予定が決められてしまってる技法講習とは別に毎月先生にご教授頂いてますのが皆様もご存じの藤本能道先生の内弟子、橋詰先生です。とても恐れ多いのですが気さくなお人柄で親切、丁寧に教わっております。今まで菊練り、高台削り、乾燥時の注意点、シッタの作り方、置き方等々基礎とお椀二つを合わせて背の高い壷を作る碗継技法、タタラで作る四角皿、六角皿等今まで習ったことのない作り方を教わり感謝しております。又スポットで中国の島田先生のお弟子さんの孫先生にお願いしまして景徳鎮の呉須をお持ちいただき染付を教わり中国美術史、日本美術史までご教授頂きました。還元焼成をした後又来日の折に講評会もして頂きました。橋詰先生に習いたいこと等をどうぞお申し出ください。奮ってご参加いただけますよう祈っております。金額ですがお１人部屋使用料 300 円頂戴します。この中で共有できるもの、釉薬、道具などを購入しております。

景徳鎮ゴスによる下絵焼成前

陶芸研究の調査考察について

自主企画による水上和則先生講座に参加し広範囲にわたる基礎的な事例に始まり陶磁史をまじえた奥の深い話を拝聴し、古代中国の窯業地の立地状況 (原料の入手、運搬水利、工人関係等々) により、その時代の窯製造の一端を知り生まれ出た製品に対する考察を深めてゆく方法に限りなき魅力と鋭敏なる手法をとって解析に当たることを知り有意義に楽しい時を過ごしました。

現在我が国においても国宝となっている「曜変天目碗」についての再現研究の調査報告の一端を拝聴し併せてその報告書を読ませて戴きこの問題の深さと広さと考察の手法に感じ入っております。

私事ながら約 40 年前ごろに、仕事の一端として半導体製造技術についていたことがあり、シリコンウェハー上に成膜する技術の一つに「気相成長法」[CVD 法] と言う方法がありその成膜の厚さの程度により 3000A° (オグストローム) 付近であれば青色を呈し、5000A° ぐらいになると赤桃色を出したりで、まるで曜変天目の七色の変化を眺める様な成膜製造に日夜没頭していたことがあり、純水と窒素と酸素により黒いウェハー上に成膜する技法は、まさしく黒天目釉上に曜変模様を析出するがごとくでありました。釉薬中に鉛、タングステンなどを含まないとする曜変天目の模様は高純度な純水と高純度のガス体における成膜が多彩な色を出し、光の入射による屈折率と膜厚により虹色になる状態は同一視できると思っております。

窯場近くの水たまりには、多くの植物があり水中にはオタマジャクシゃ蛙、ヤモリなども生息しており、この水を用いて釉を作ったりすれば多要素が混入することもあるでしょう。又は温度調節のために燃料の薪には水を含ませて投入することもあります。

小生も自分の登り窯に水分を入れたくて水を投入し一段目の窯の天井に大亀裂を作ったこともありました。研究とは命がけのことがあるものです。

中国の臨安の工事現場 (古い宮廷の迎賓館の跡地と言われている) より曜変天目の陶片が出土したことにより胎陶土及び釉薬の試験片が採取され研究が一歩進むことを願っています。

有意義な企画を今後共計画されることを切に願っております。　　小松幹夫　記

2020 年　イベント紹介　(予定)

1　[杜 窯 会] 場所　日本橋三越本店　2020 年 8 月 26 日 (水) ～ 8 月 30 日 (日)

2　陶磁研究やまぼうし会第４回作品展
場所　文京シビックホール　日時　2020 年９月２３日（水）～９月２７日（日）

3　秋のやまぼうし会 [研 修 旅 行]　2020 年１０月３日（土）～１０月４日（日）
金沢、小松（人間国宝吉田美統工房訪問）

豊福 誠　作陶展　瑞玉ギャラリー

2019 年 11 月 10 日～ 16 日

第３号 (今号) の表紙写真も豊福先生の作品です。作陶展にも展示された　本瑠璃色色絵壷「山帰来」 瑞玉ギャラリーでの個展は３回目になります。「これからもずっと、陶芸の可能性をできるかぎり、追求してまいります。」 (案内状より)

三上　亮　Form Limit 展

2019 年 1 月 25 日～ 2 月 24 日

パリのエコール　デ　ポザール
(Form Limit 展) より

テロワールのかたち
三上　亮　酒器展

2019 年 12 月 21 日～ 27 日
於　ギャラリー山咲木

瓶

自ら様々な土地で採取した素材を生かして、やきものにしました。
(テロワール)
フランス語で「土地」や「土」を意味する。

藤本能道生誕 100 周年弟子一門展

於　柿傳ギャラリー
2019 年 12 月 21 日～ 27 日

門下生作品

故　高橋　誠　先生作

橋詰　正英　先生作

新会員紹介

会員番号　2014173　須甲松信
会員番号　2014174　高野淳一

会員番号　2014171　北村廣明

　時間的な余裕が生まれ、芸大の公開講座に参加したことが縁で「やまぼうし会」に入会しました。
陶芸には興味がありましたが、実際に作品までに仕上げたのはこのときが初めてでした。難しさの一方で、何気なく使っていた家にある器も違ったものに感じました。マイペースで楽しんでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。　作品はすでに観葉植物を植えこんだ鉢と受け皿です。(恥ずかしながら)

会員番号　2014172　野村亮太

「芸大取手キャンパスで開催された野焼き体験でこの会について教えていただき、その後芸大の公開講座で陶芸に更に興味をもち、入会させていただきました。
漆芸や染物等のものづくりも好きで時々制作していますが、陶芸においてもファッションや家具として用いることができるような作品を制作できたらと思っております。よろしくお願いいたします

大倉陶園
良きが上にも良きものを
2019年、大倉陶園は創立100周年を迎えました。

■本社店
〒245-0052
神奈川県横浜市戸塚区秋葉町20番地
TEL：045-812-8588
営業時間　10：00～17：00（土日休・祝不定休）

■帝国ホテル店
〒100-0011
東京都千代田区内幸町1-1-1（帝国ホテル地下アーケード）
TEL：03-3503-6020
営業時間　10：00～19：00（日曜・祝日～18：00）

丸谷絵具・陶芸材料・上絵付筆
千園堂

〒923-1112
石川県能美市佐野町イ1-5番地
TEL　0761-58-5711
FAX　0761-58-5677

広告

陶芸用品・陶芸窯の専門店

・陶芸粘土、釉薬、小道具、原料

・陶芸焼成炉（電気窯・ガス窯・灯油窯）

・材料から焼成炉まで幅広くご用意しております。

カタログのお送りや
店舗販売も行っております
お近くのシンリュウ営業所へ
お気軽にお問合せ下さい

陶芸窯・陶芸材料メーカー

シンリュウ株式会社

■ 埼玉本社・工場	埼玉県朝霞市上内間木５１４－２	TEL:048-456-2123	FAX:048-456-2900
■ 神奈川支店	神奈川県厚木市金田６７２－５	TEL:046-295-1641	FAX:046-295-1624
■ 北関東支店	茨城県笠間市笠間２４８７－３	TEL:0296-72-9950	FAX:0296-72-9952
■ 東北支店	宮城県仙台市若林区六丁の目南町8-82	TEL:022-288-2651	FAX:022-288-2652
■ 信楽支店	滋賀県甲賀市信楽町柞原５００	TEL:0748-82-4166	FAX:0748-82-4169

広告

瑞玉ギャラリー

取扱作家

豊福　誠、三上　亮
上田哲也、望月　集
丹澤裕子、林　妙子
深谷　泰、百田　輝
平井雅子、今井一美
椎名　勇、長谷川奈津
髙岡太郎、小林佐和子　他

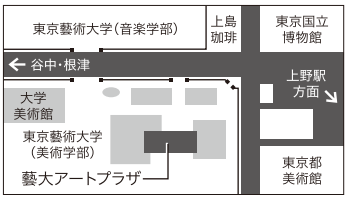
使い込むごとに魅力が増す日常の作家ものの工芸品を扱っております。

〒173-0004
東京都板橋区板橋 2- 45- 11
TEL 03(3961)8984
常設時は日曜・水曜・祭日定休
展覧会会期中は無休
10:00～18:00
展覧会翌週の月曜日は臨時休業
http://www.suigyoku.com/gallery.html

東京藝術大学 × 小学館
藝大アートプラザ共同運営事業
～藝大出島プロジェクト～

藝大アートプラザ

藝大の学生、先生、卒業生の作品が
展示され、購入できる場所です。
学内での研鑽の成果を、社会に、世界に
届ける賑わいの「出島」です。



artplaza.geidai.ac.jp

〒110-8714
東京都台東区上野公園12-8
TEL050-5525-2102

営業時間　10:00～18:00
休業日　　月曜日（祝日の場合は営業し翌平日休業）、展示替え日ほか

陶芸用品多数 !! 豊富な品揃え !!

陶芸用品・陶芸機材のオンラインショップ

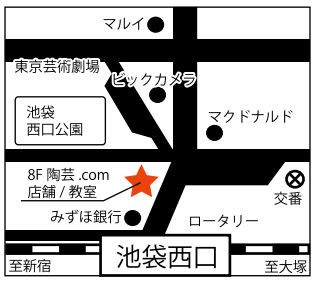
陶芸.com

http://www.tougei.com

月替わりセール
実施中！

7,700 円以上は
送料無料！

商品代金の 3%が
ポイント還元！



●画材のオンラインショップ
e-画材.com
http://www.e-gazai.com

●店舗・陶芸教室もございます。
陶 池袋店舗　陶 池袋教室

〒171-0021
東京都豊島区西池袋 1-15-9 第一西池ビル 8F
TEL:03-5979-1891
◎定休日：年末年始
◎営業時間：10:00 ～ 18:00

［編　集　後　記］

“やまぼうし３号”を発刊することができました。
広告掲載などご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。

・技法講習会や諸行事の追体験ができ、気づきのある会誌を！と模索　　(T.M)
・ 記事の内容が少しずつより進化充実してきている感じがいたします。　(O.H)
・第３号は皆様のお陰でますます 充実した内容になりました。手にしていただければ幸いです　(M.E)
・編集作業の方が楽しくなり、陶芸が疎かになって困っております。(O.T)
・新な作家の方々と出会いこのご縁が繋がって行くと良いなと思いました。(N.A)
・今年度も盛り沢山のやまぼうし会でした。
陶芸は元気の素！ (T.S)
・会報が増刷され内容も充実していくように情報提供をお願い致します　(A.N)
・ “やまぼうし”を媒体とした良きご縁の広がりに乾杯！
(M.H)

発行年月日　2020 年４月　発行責任者：落合卓四郎
揮　毫：島田文雄　名誉教授
表紙作品：豊福　誠　教授　裏表紙：三上　亮　准教授

http://www.jsca-tua.jp Fax 03-4243-3422
© 陶磁研究やまぼうし会 2018